

なってみる学び第1弾 4年エルダートライ



エルダートライという言葉は、ご存じない方も多いかもしれません。エルダートライとは高齢にならないと理解できない身体機能の低下を全身で作り出す『高齢者疑似体験セット』のことです。

4年生が総合的な学習の時間に福祉教育に取り組む一環として、丹波市社会福祉協議会の方々を講師に迎え、

写真のような器具を全身につけ、階段を上り下りしたり、椅子に座ったり立ち上がったたり、また本を読む、小さな紙に字を書く、本のページをめくる等々の疑似体験をしました。

普段は不自由なく簡単にできていることができにくいというのは、4年生全員が初めての体験だったようです。

「見分けづらい色がある」
「見えにくくて段差が怖かった」
「背もたれの無い椅子は体に力を入れておかないと体重が



支えられなかった」「手すりがあると、上り下りしやすい」「家族や地域の方の中には同じように不安を感じている人もいるかもしれない」と高齢者になってみたことで多くの学びがあったようです。

また、寄り添う人の声かけやサポートのやり方が高齢者の安心につながることも併せて学んでいました。



講師の方からは、車いすからでも手が届く位置にボタンがある自動販売機ができていることを例に、気づいた人・気づいたことが形となり、多くの方が使いやすい社会になっているなどのお話もいただきました。

福祉という字の「福」「祉」は、ともに「しあわせ」という意味を持ち合わせています。それぞれが力や知恵を出し合って「人々を幸せにすること」。また福祉教育は「誰もが幸せに暮らしていくためには何をしたらいいかを考え、行動すること」です。そのためには、今回の「なってみる学び」を「自分事」と捉え、どんな行動にうつしてくれるか、今後の4年生の学びに注目したいと思います。